

除草剤

ゼータタイガー 1キログラム粒剤

プロピリスルフロンのプロモブチド・ペントキサゾン粒剤

平成30年11月21日付けで以下の適用拡大が登録されました。

【変更内容】

- ・作物名「移植水稻」の使用方法「湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布」を「湛水散布又は無人航空機による散布」に変更する。
- ・作物名「直播水稻」を追加する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロピリスルフロンの含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ナカハ ヘラモダカ ミズガヤツリ ウリカ エゾノササガサ オモダカ クダマ コキヤガラ シズイ ヒムシロ セリ アミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時 散布機で 施用	2回以内	2回以内	2回以内
	移植直後～ ルイ3葉期 ただし、 移植後30日 まで	湛水散布 又は 無人航空機 による 散布						
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ナカハ ミズガヤツリ ウリカ ヒムシロ セリ アミドロ・藻類による 表層はく離	稲1葉期～ ルイ3葉期 ただし、 収穫90日前ま で						

次頁へ続く

前頁より続く

使用上の注意事項の変更

【変更前】

- ・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにすること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- ・本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布すること。
 - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- ・無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。

【変更後】

- ・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにすること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。(変更)
- ・本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布すること。
 - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。(変更)
- ・稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。(追加)
- ・無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。(変更)

使用上の注意事項などについては、製品に貼付されているラベルを参照のこと。

住友化学株式会社